

水ビジネスの新潮流

1

日本に暮らしていると実感がないが、世界では今、深刻な水不足が進行している。世界の人口は50年には90億人を超える見込みだ。人口が増加すれば、当然、食料の増産に迫られる。そのために必要なものは何か。水だ。さらに新興国の工業生産が上昇することで工業用水需要も上昇する。しかも水には石油に似ている、石炭、ウランなどといった代替物がない。水は水でしか補えない貴重な資源なのだ。人口増加と経済発展で、世界中で水不足が加速度的に進行するのは必至である。

すでに国連は50年頃、約40億人が水不足に直面する」という報告を行っている。これから約40年後、人類の2人に1人は水不足に苦しむことになるというのだ。逆に言えば、それだけの潜在的な「水ビジネスニーズ」があることを意味する。

OECD等の報告では、30年までの公共インフラ総額は41兆ドル(OECDとBRICSの合計)と見込まれ、50%以上が水インフラ投資(22兆6千億ドル)である。また水インフラには年間1兆ドルの投資が見込まれている。

また、水ビジネスの市場規模は110兆円市

公共インフラ投資の50%以上が水

こうした予想に基づき、現在、欧米や新興国を中心に水ビジネスが過熱している。25年に世界の市場は110兆円市

成り行きで、今のところ80兆円から120兆円の間にしよう」と答えている。なぜなら各統計予想の算出根拠を見ると、水

ビジネスの定義や基本年

先進国、新興国は上下水道民営化へ

水ビジネスの市場規模は110兆円市

水ビジネスの市場規模は110兆円市

水ビジネスの市場規模は110兆円市

水ビジネスの市場規模は110兆円市

水ビジネスの市場規模は110兆円市

水ビジネスは巨大かつ永遠のビジネス

場になると規模について多くの異なる数字が上げられ、筆者も「どれが本当の数字ですか」と聞かれる場合は多いが、「ビジネスは

水ビジネスの見直し

英国は上下水道民営化が100%(スコットラ

世界水ビジネス市場の成長見通し

(単位:兆円)

	素材・設計・建設	管理・運営サービス	合計
上水道	19.0	19.8	38.8
海水淡水化	1.0	3.4	4.4
工業用水	5.3	0.4	5.7
排水再利用	2.1		2.1
下水道	21.1	14.4	35.5
合計	48.5	38.0	86.5

GW/Global Water Market 2008

今後の水ビジネス市場成長率

国・地域	市場成長率・予測(25年まで)
サウジアラビア	15.7%
インド	11.7%
中国	10.7%
東南アジア	10.6%
中東・北アフリカ	10.5%

GW/Global Water Market 2008

新興国やアジア諸国において、人口の増加、経済発展、工業化の進展、個人的には生活様式の変化(水洗トイレ、ガーデンニング)などにより、急速に水需要が高まることが見込まれている。それでは水ビジネスの地域別、また分野別の伸びを見てみよう。

海外の先進国では、もともと「水」はビジネスの種だったと言える。日本と違い、多くの国で上下水道事業が民間企業のビジネスになっている。上下水道事業は本来、公的セクターが社会インフラとして構築すべき事業である。しかし、途上国では資金難、先進国では建設後、財政難にあえぐ公的セクターが多く、施設老朽化への対応が困難になっている。そこで頭角を現したが、上下水道事業経営ができる民間企業というわけだ。では、民間が関与した上下水道事業を国や地域別に



グローバルウォータ・ジャパン
代表

吉村 和就

(よしもら・かずなり)